

第1部

知的障害者のすまい「建築と支援」

■建築も支援の一つ

- ①支援方法が建築を決める
- ②建築計画と利用者の特性

■利用者の特性に合わせたすまい

- ①強度行動障害を持つ方のすまい
- ②特性に合わせて9人定員のグループホームを2つのユニットに分けて計画
- ③自由に外出できない入居者が安全に楽しめる中庭を持つグループホーム

■利用者の特性に合わせた日中活動の場

- ①多様に展開する成人一般の日中活動の場
- ②強度行動障害を持つ方のワークスペース
- ③重度身体・重症心身障害を持つ方の日中活動の場
- ④地域交流の場を兼ねた障害者の働く場



第2部

支援の変化・建物の老朽化への建築からの提案

■利用者の高齢化への対応

- ①生活する場の変化 「作業する場」から「くつろぐ場」へ
- ②トイレ改修 湿式から乾式へ
- ③浴室改修 浴槽の更新とスタッフ負担を減らす仕上げ材の選択

■個室化改修 できる場合とできない場合のプライバシー改修

■食堂改修 待機場所の確保と動線の整理

■老朽化対策と合わせて考える建築のポイント



第3部

すまいのディテール

■壊されにくい木製建具

■窓から出て行くことへの対策

■知的障害者のすまいに使う床材

■壁 破壊への対応・遮音対策

■天井 吸音効果のある材料

■失便処理装置

■水洗いできる居室

■トイレの新しい工夫

■浴室の形態と計画のポイント

■洗面の工夫

■防犯対策



第4部

建築とコスト

■木造グループホームのコスト

■福祉とコスト

■住みながら改修と仮設のコスト

■心地よい住まいはコストに影響するか？



第2回



知的障害者のすまいを考える

医療・福祉施設の企画・設計監理を専門とする ゆう建築設計が開催するセミナー

開催日

2017年10月28日(土)
13:30~17:30

会場

AP東京八重洲通り
(Aホール)

建築も、支援の一つ。

ゆう建築設計が特性に合わせた
すまい・働く場をご提案します。



プログラム

※プログラム・時間配分は予告なく変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。

13:00~13:30

〈受付〉

13:30~14:50

第一部 知的障害者のすまい「建築と支援」

■建築も支援の一つ

■利用者の特性に合わせたすまい

■利用者の特性に合わせた日中活動の場

14:50~15:00

〈休憩〉

15:00~17:00

第二部 支援の変化・建物の老朽化への建築からの提案

第三部 すまいのディテール

第四部 建築とコスト

17:00~17:30

質疑応答・意見交換

講師



河井 美希
一級建築士



岩崎 直子
一級建築士



清水 大輔
一級建築士



竹之内 啓孝
一級建築士
日本感覚統合学会会員

株式会社 ゆう建築設計事務所

京都本社 担当：清水

●E-mail: eu-seminar-tokyo@eusekkei.co.jp

京都本社 京都市中京区堀川通錦小路上ル四坊堀川町6 1 7番地

TEL.075-801-0022

東京支店 東京都港区西新橋2丁目23-2日比谷パークビル7F

TEL.03-6721-5430

大阪支店 大阪府中央区道修町4丁目5-10サンビル6F

知的障害者のすまいと ゆう建築設計の取り組み

私たちは、医療・福祉分野に特化した建築設計事務所です。10年前に入所施設のトイレ改修の依頼を頂いたことをきっかけに知的障害者のすまいについて考え始めました。支援員の方と打ち合わせを重ね、泊り込み調査を行い知的障害者の生活と建築の関係についてお互いに理解を深めていくうちに、「建築も支援の一つだ」という共通の認識を持つようになりました。さまざまな特性の方と向き合うとき、支援の仕方に教科書がないように障害者の建築にも教科書はありません。セミナーでは知的障害者のすまいについての体系的な整理を目指すのではなく、私たちが経験し、考え工夫したことを広くお伝えし、知見をみなさんと共有することで全国の知的障害者のすまいを変えていくお手伝いをしたいと考えています。どうぞ気軽にご参加いただき忌憚ないご意見をお聞かせください。

平成29年9月
株式会社ゆう建築設計事務所

知的障害者のすまい 「建築と支援」



必要に応じて空間を仕切れる娯楽室と多様な座り方、もたれことを許容するソファ



日中活動の場とすまいの場を完全に分けた強度行動障害を持つ方のすまい



自由に外出できない入居者が安全に楽しめる中庭を持つグループホーム



小上がり畳家具によりくつろぐ場所に可変性を持たせたデイルーム



交差点に位置する地域交流+障害者の働く場



敷地内に「道」をつくり居室が直接道路に面しない工夫



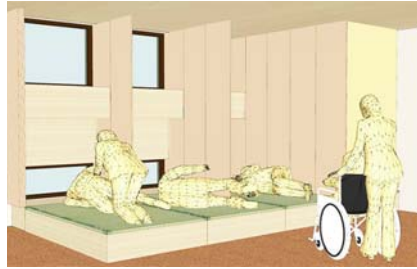
利用者の状態に合わせた手すりの配置



生活感+清潔を両立する水洗いできる居室



強度行動障害を持つ方のワークスペース



重症心身障害の通所施設での排せつ介助時のプライバシー配慮への工夫



高齢化対応で日中活動の場を敷地内に移動

支援の変化・建物の老朽化 への建築からの提案



増改築に合わせて内装を一新

すまいのディテール

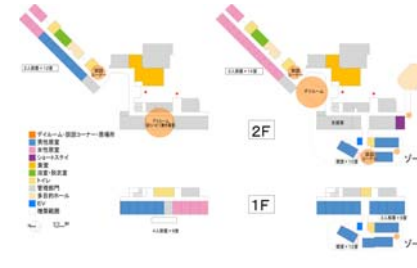


流水実験を重ねて開発した失便処理装置

建築とコスト



利用者の状況を調査し、必要な箇所に絞って手すりを計画した例



老朽化対策に合わせた大規模増改築で居室の個室化と同姓介助しやすい動線を実現



乾式に移行しつつ湿式も残したトイレ改修



重すぎず壊れにくい建具をつくるための実験



利用者の状態変化に合わせて部屋と一体化できる居室内トイレ



同じ定員でも特性・支援の考え方によって面積が変わるため初期段階の検討が重要



使いながら改修での埃対策と強度を兼ねた仮設計画



二人部屋を高齡化対応で洋室化し、照明・内装・テレビ等の設備を個別に整備



高齡化に対応してリフト付個室を設置し、仕上げ材料も掃除しやすいものに全面改修



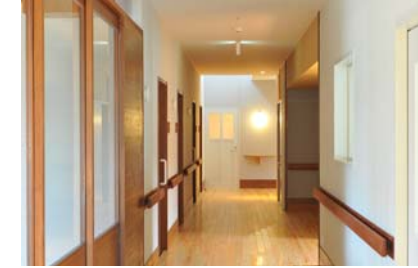
便座に座ったまま使える可動手洗いの試作



開閉を制限せず、風通しと落下防止の安全を両立する化粧ルーバー



木造のグループホームで屋根を分節し、住宅が連なるイメージで計画



壁面照明による心地よい空間づくり

知的障害者のすまいを考える